

デジタル・ポピュリズム

-操作される世論と民主主義-

まえがき

ハワード エドモンド通一

- 友人間の政治的見解の対立（5～7 頁）

「友人の小さな集まりの中だけでも政治に関する意見が真っ二つに分かれているとは、以前はあまりないことだった」 ← 反 EU の立場をとる友人のニュースソースはネット上の『ニュース』

- インターネットの普及と過激な意見（7～9 頁）

- トランプの例

「ツイッターを『最大の武器』とする」トランプ大統領は、既成メディアを『フェイクニュース』と揶揄して「有権者に何が真実であるかをわかりにくくして混乱させ」たり、意味不明、非論理的な発言を繰り返しながらも、「熱烈な支持者たち」をはなさない。

⇒「『右派』がこれほど発言権を増したように見える」

- ネットにおける過激な意見

「誰もがネット利用者となり」、「実際の数以上に過激な意見が多く見られ」る。

⇒「人々の偏見が強められる可能性はないだろうか。」

- デジタルテクノロジーの影響力（9～10 頁）

ネット上では「個人のデジタル上の活動はビッグデータに収められ」、あらゆる「アルゴリズム」の利用方法で「利用者に思わぬ影響がもたらされることもある。」

⇒「デジタルテクノロジー」は「民主主義の根本をゆるがしかねないまでに影響を与えるようになった。」

- 本書の目的（10 頁）

「消費生活と政治に関するデジタルテクノロジーに注目し、どのような手法が使われているかを紹介するとともに」、「民主主義に対し、デジタル社会が及ぼす影響について考え」ること。